

研究開発型製薬企業のグローバルビジネスモデルの変化-1

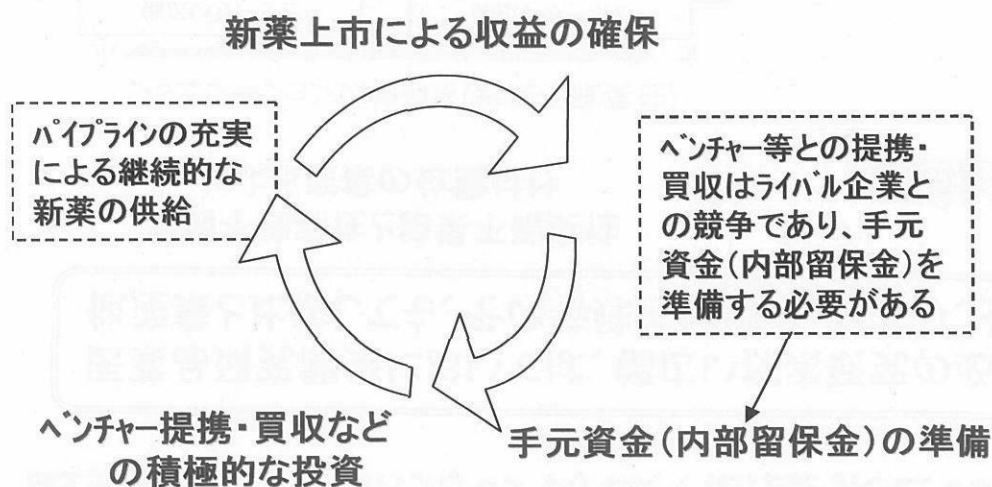
バイオテクノロジーの進歩と技術革新の加速により、ベンチャー等からの技術導入を迫られるなど創薬アプローチが変化しており、機動性の高い手元資金活用と投資・回収サイクルの短縮化が必須である。

パイプライン充実のためにはベンチャー等との提携・買収が必要



ビジネスモデル	自社研究所	ベンチャー等との提携	ベンチャー等の企業買収
投資規模	一定の規模が必要 (経年的)	ライセンスに必要な費用 最大1,000億程度 (一時的)	買収に必要な費用 最大1兆円超 (一時的)
支出方法	研究開発費を充当	研究開発費を充当	手元資金(内部留保金)を充当

投資・回収のサイクル



研究開発型製薬企業とベンチャーとの補完関係

研究開発型製薬企業の自社研究所でカバーできない領域の医薬品をベンチャー企業からの提携等で補い、一方でベンチャー企業の弱い点である臨床研究や販売を製薬企業がカバーしている

研究開発型製薬企業

